

2023

業務用アルコール検知器（東海電子製）
納入先業種・機種レポート 2023年版



“ 飲酒運転をゼロに ”

Since 2003

東海電子株式会社 Tokai-Denshi inc

2023-9-30

2023年版

東海電子製 業務用アルコール検知器

納入先業種と機種について

適用

本文書における統計はすべて、東海電子株式会社の自社調べによるものです。

本文書は、安全運転管理者選任事業所やその他一般事業者、運輸事業者等が、アルコール検査器（検知器）を法人として導入する際に、導入目的に応じた適切な機種選択を助けることを意図しています。

また、一般消費者におかれましても、個人向けのアルコール検査器（検知器）と、事業者向けのアルコール検査器（検知器）との差異について、興味を持ち、知見を広めていただく手助けになればと考えております。

各種メディア様におかれましても、一般企業や運輸企業がどのような種類のアルコール検知器を使用しているか、実態把握の参考として、どうぞご自由にお使いください。

1

東海電子（株）アルコール検知器

2023年度（単年）について

（2022年10月1～2023年9月30日）

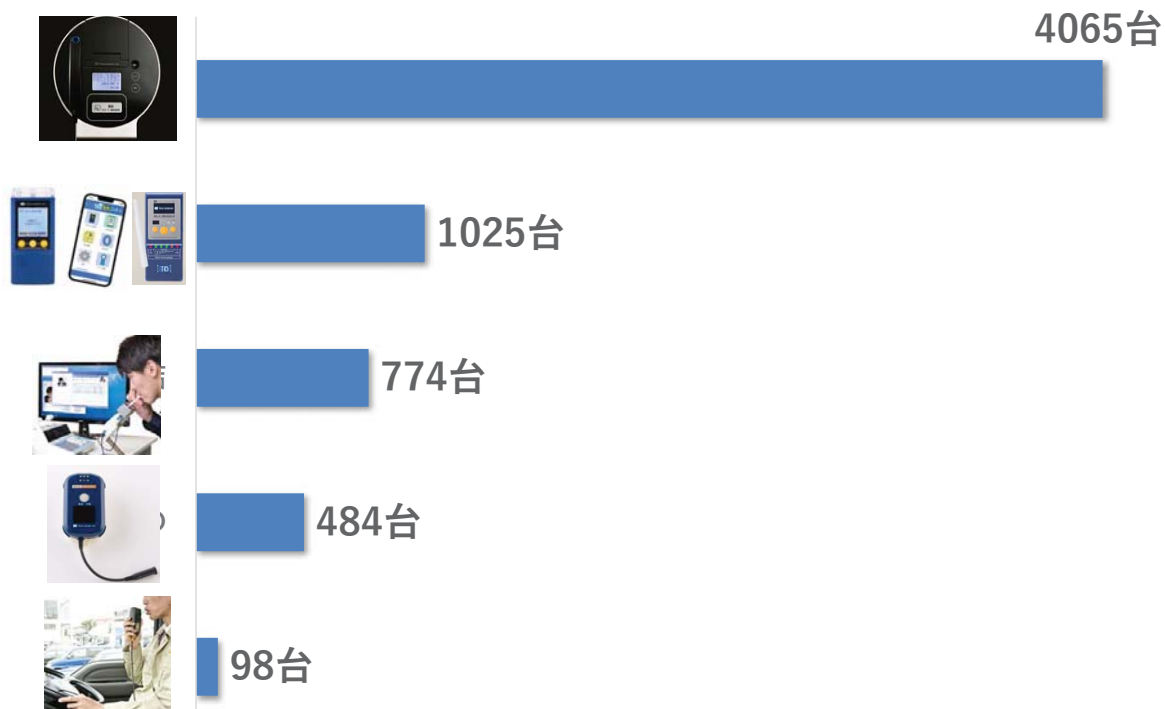
2023年度単年

（2022年10月～2023年9月）

アルコール検知器・点呼システム関連 外部環境

- ◆ 2022年 9月： 警察庁 白ナンバーアルコール検知器義務化延期（再開未定）
- ◆ 2022年10月：一部電子部品（半導体不足）により、一部機種の出荷停止
- ◆ 2023年 4月：国土交通省 業務後自動点呼開始
- ◆ 2023年 5月：新型コロナウイルス 5類移行
- ◆ 2023年 7月：警察庁 白ナンバーアルコール検知器義務化 2023年12月からの再開決定
- ◆ 2023年 7月：国土交通省 貸切バス 点呼記録の電子（電磁）保存義務化開始決定
- ◆ 2023年 8月：当社、材料高騰による一部機種の値上げ実施

2023年度 単年 機種別実績



2022年10月～2023年9月、機種ごと実績は、①ALC-miniIV ②ALC-Mobile II / III ③ALC-PRO II ④デジタコ接続アルコール検知器 ⑤アルコール・インターロック装置 の順であった。

2023年度 単年 機種別実績（設置型と非設置型・遠隔地型）



○当社のアルコール検知器は、2つのタイプがある。

- 1) 設置型：主に事務所内に据え置いて、10名から数百名が共用して使用するもの。PC接続タイプ、スタンドアロンタイプ等がある。
- 2) 非設置型：持ち運びが出来て遠隔地で使用したり、車両に装着して使用するもの。スマートフォン接続型、アルコールインターロック型、デジタコ・ドラレコ等車載器に接続するタイプ。遠隔地型とも言い換えられる。

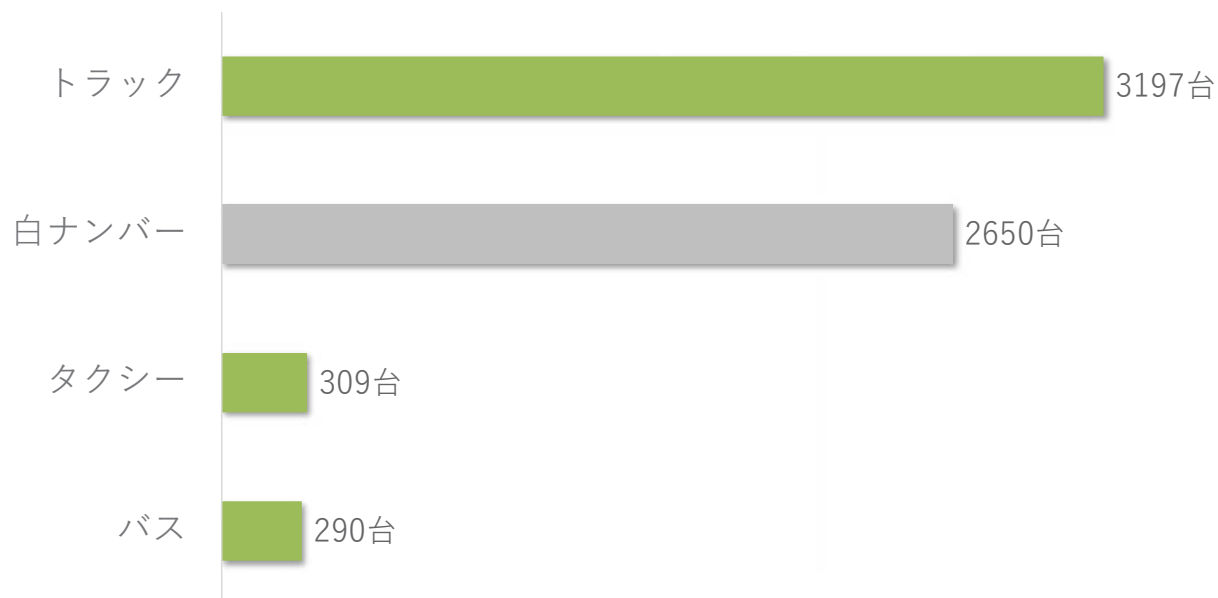
○2023年度は、比較的高価格帯である設置型アルコール検知器が、非設置型を上回った。設置型は管理の効率化に適していると認識されている模様。

○一方、当社ではスマートフォン対応のアルコール検知器や車載型のアルコール検知器は設置型よりも低い実績であった。

理由としては

- 1) スマホ対応型は、競合品が多くかつ、当社の方が売価が高く、価格優位性が低い。
- 2) 車載タイプを「車両数分」購入する場合、予算規模が大きくなる。等が考えられる。

2023年度（単年） 納入先 業種別 実績



—昨年2022年度は初めて白ナンバーが緑ナンバー実績を上回った年となったが、2023年度は、トラック業界への納入が最も多い結果となった。旅客事業者の2023年度前半はコロナの影響で低調であったが、5月移行徐々に実績が増えていった。

2

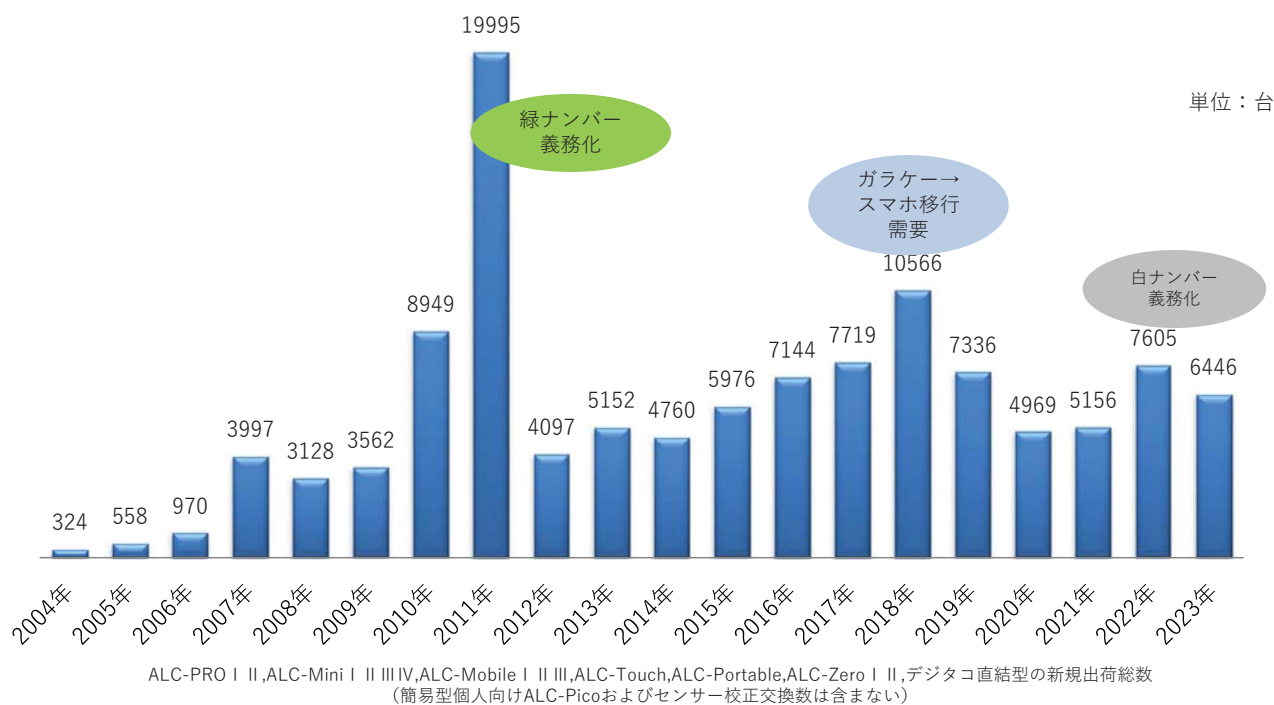
東海電子（株） アルコール検知器

納入先業種と機種について

2003年～2023年累計

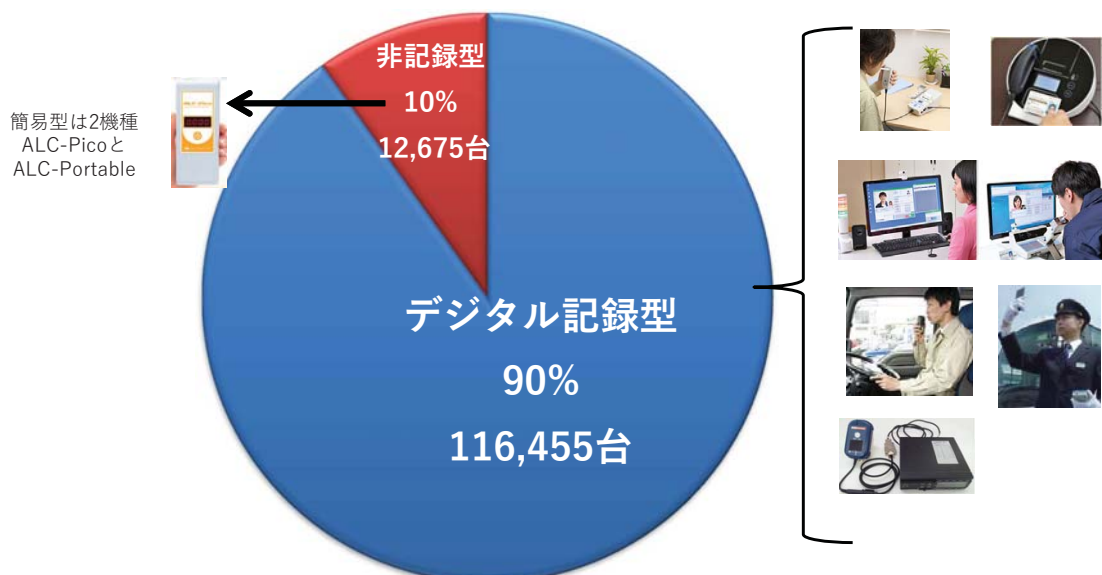
(2003年10月～2023年9月30日)

東海電子 法人向け記録型アルコール検査器 2003年10月～2022年9月 累計 118,409台



当社は、2003年10月から、バス、タクシー、トラック、産廃事業者、鉄道、航空、船舶、その他一般企業へ法人向けに特化したアルコール検査器を出荷しています。2023年9月末時点、20年間で累計11万8千台超となった。

9割が「記録型」アルコール検査器



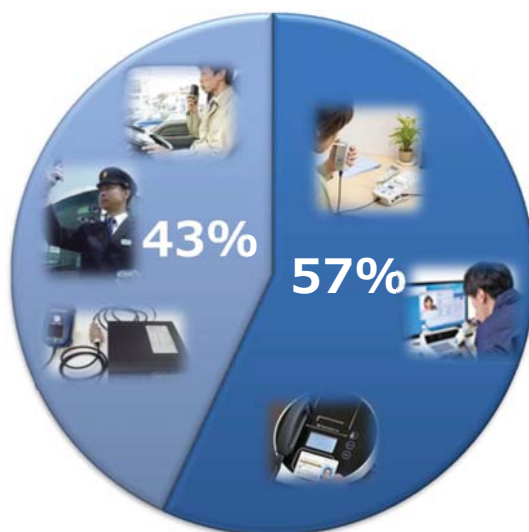
当社の出荷実績のうち、約9割が記録型（PCに記録保存・感熱紙に記録保存・クラウドサーバー保存）である。記録型はすべて法人が購入している。一方当社では個人向けに簡易型のアルコール検査器も一部販売している。旅客事業会社が社員全員に支給するために購入されるケースがあったが、記録が残らないことから、また、その後のメンテナンス依頼が少ないことから、購入後の使用・運用の実態は不明である。当社の簡易型タイプが10%（ALC-Portable 1,954台＋ALC-pico 10,721台＝計12,675台）という少ない実績である理由としては、この市場は競合品・競合メーカーが多く、当社の簡易型アルコール検知器は、他社の同等性能品より高価であるため競争優位性が低いからであろう。

総評としては、当社の実績では**記録型が主流かつ堅調**であり、簡易型・非記録型は価格競争力が低いため**低調かつ受注が不安定**である。総じて、**飲酒運転「抑止力」や、管理の効率性から、企業向けアルコール検知器は記録型が選ばれるのが一般的傾向であると考えられる。**

出荷内訳 対面点呼用、電話点呼用 (2003～2023)

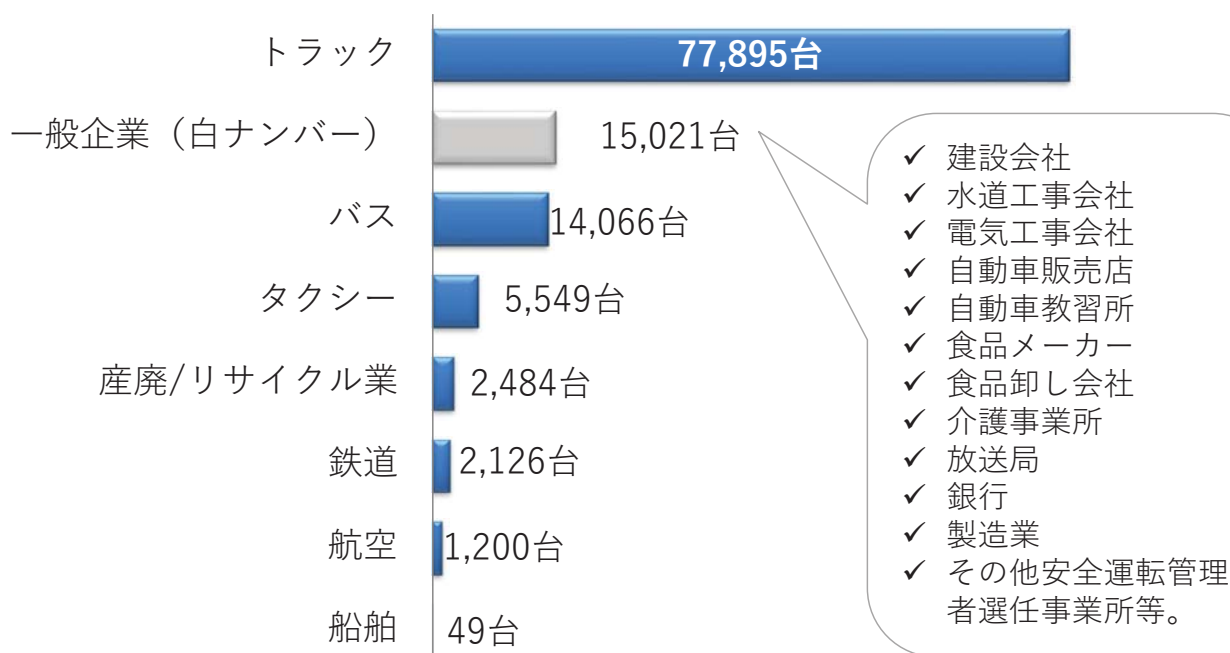
■ 設置・固定型アルコール検査器

■ 遠隔地型アルコール検査器



当社の業務用アルコール検査器ALCシリーズは、点呼用途で言うと、大きく、対面点呼やIT点呼用の「記録式・設置型」と、遠隔地記録式（車載含む）に分けられる。**アルコール検査の運用初期は事務所管理型がまず導入され、その後、遠隔地型が導入されるケースが多く見られる。**どちらかを、というより、結果的には両方を導入し、場面（目的、運行形態）に応じて使い分ける「複数機種併用」が一般的であろう。

販売先の業種内訳 (2003～2023)

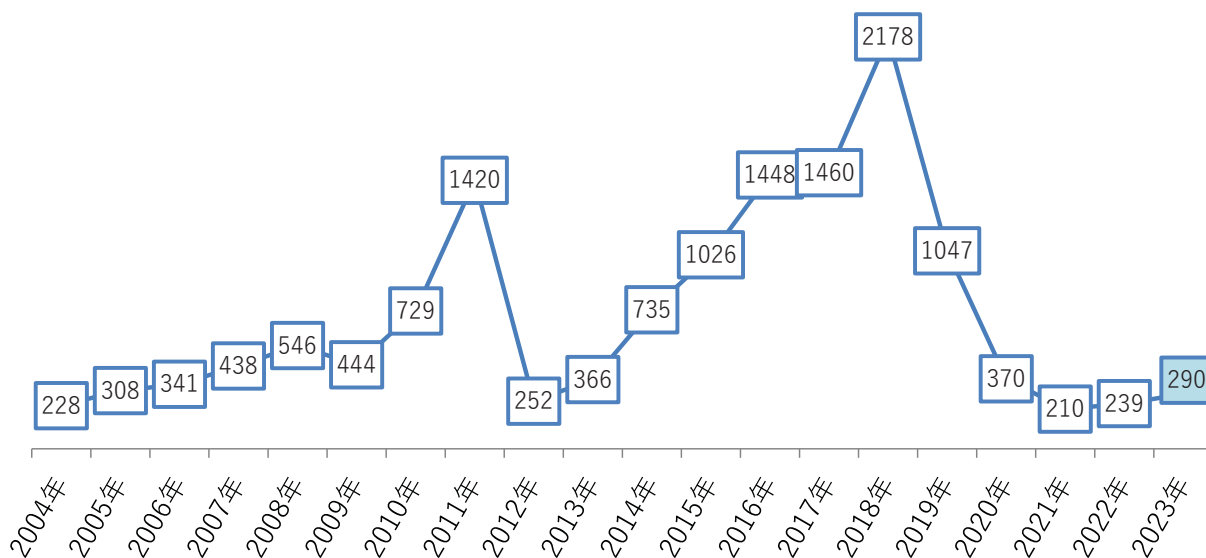


アルコール検査器（検知器）はもともと緑ナンバー（特にトラック）企業の実績が多かったが、2021年の飲酒運転事故により道交法施行規則が改正（いわゆる白ナンバー・安全運転管理者選任事業所へのアルコールチェック義務化）され、**結果、バスやタクシー等旅客自動車運送事業者（いわゆる緑ナンバーの）よりも一般事業主の導入実績が上回ることとなった。**もはや「アルコール検知器＝緑ナンバー事業者が使うもの」ではなく、「アルコール検知器＝さまざまな業種の企業が普通に使うもの」という時代になったと言える。

業界ごと 検知器導入 推移 (2003~2023)

バス

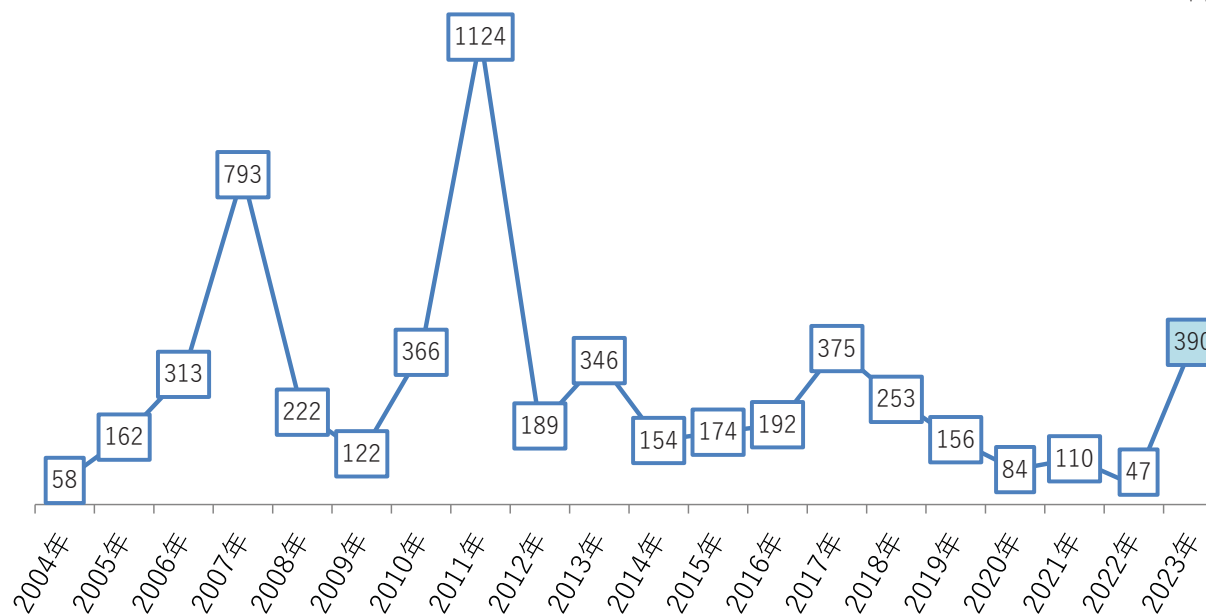
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移 (2003~2023)

タクシー

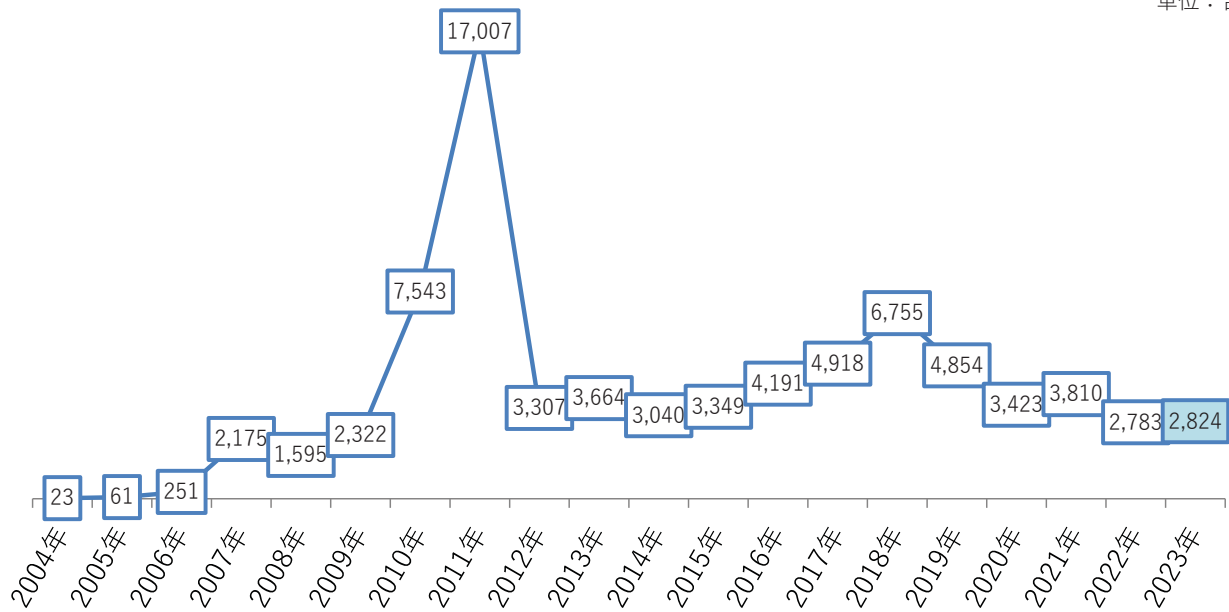
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移

トラック

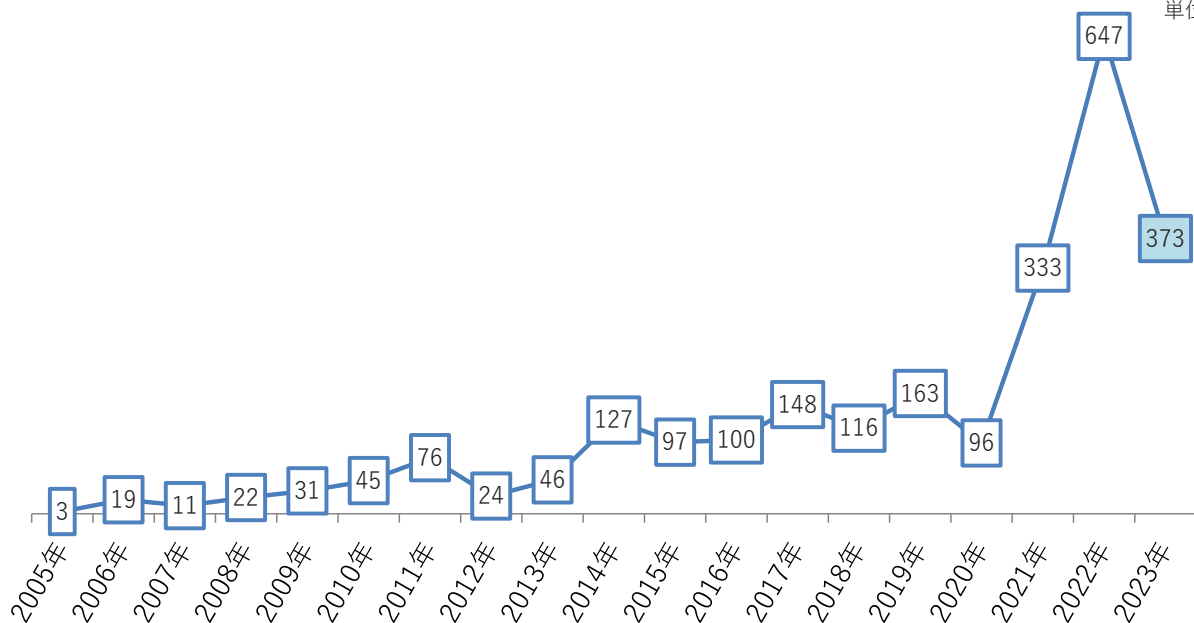
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移 (2003~2023)

産業廃棄物収集運搬・リサイクル業

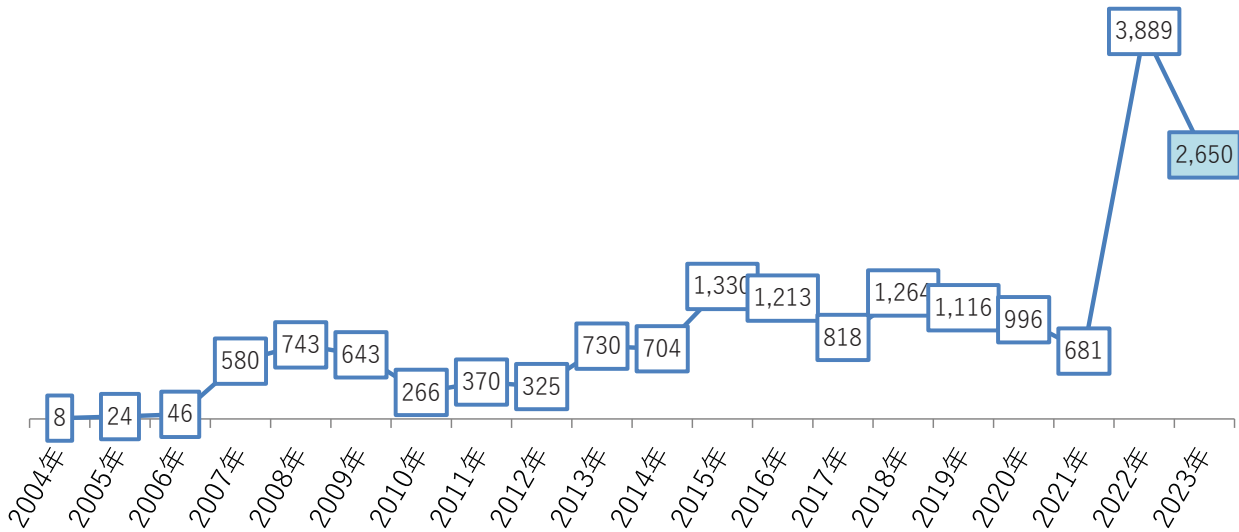
単位：台



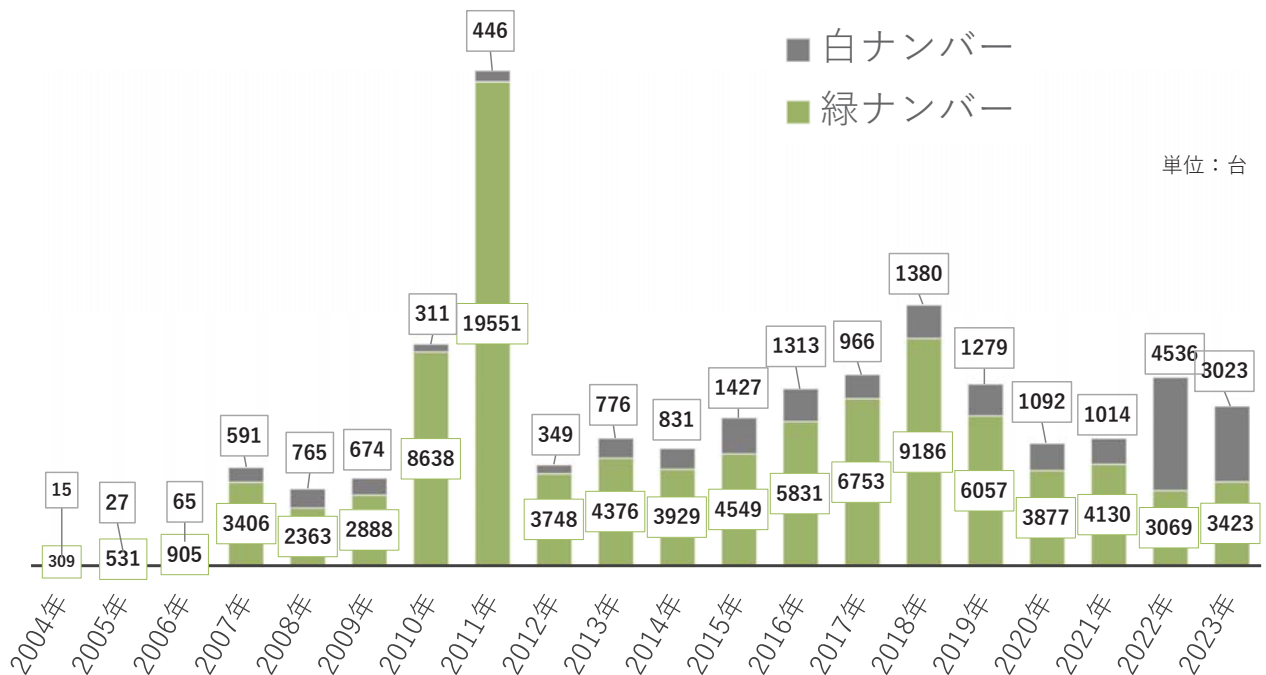
業界ごと 検知器導入 推移

鉄道、航空、船舶、その他、
安全運転管理者選任事業所（緑ナンバー以外の一般企業）

単位：台



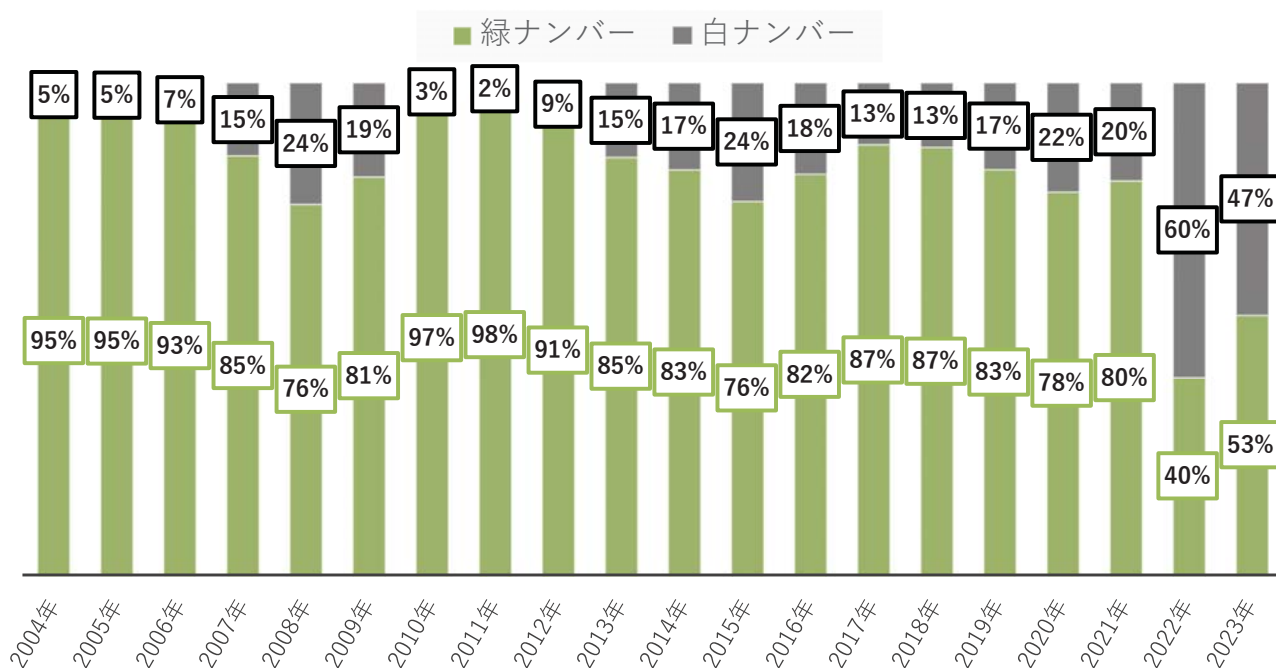
緑ナンバーと白ナンバー比率（2003～2023）



2022年度は白ナンバー義務化により、緑ナンバー実績を白ナンバー企業の契約実績がはじめて上回った。しかし、2023年度は、緑ナンバー実績が白ナンバー実績を上回る傾向に戻った（戻り始めている）。

白ナンバーの業種としては、産業廃棄物収集運搬業、リサイクル業、建設業、卸売業、自動車製造・販売業、介護事業所、サービス業等、幅広く浸透した。白ナンバーは設置型の実績が高かった。単純な飲酒運転防止観点ではなく、「健康管理・飲酒管理」意識の高まりや、「デジタル化・IT化」が一般企業で進んでいることが背景にあったと考えられる。

緑ナンバーと白ナンバー比率（2003～2023）



結果的に、白ナンバー実績が緑ナンバーを上回る実績となったのは昨年度(2022年) だけであった。今後の比率については、緑ナンバー業界では運行管理の高度化施策推進によって点呼のデジタル化・アルコール検知器の映像保存等のニーズが再燃し、白ナンバーより実績が多い傾向が続くであろう。一方、白ナンバー業界ではスマートフォン接続型・クラウド保存型をはじめ、始めから**デジタル記録保存型アルコール検知器を導入した企業が多いと思われるため、早々に機種や運用を変えることはなさそうであり、当社の白ナンバー実績が大幅に増え、緑ナンバーを上回ることは当面ないと思われる。**

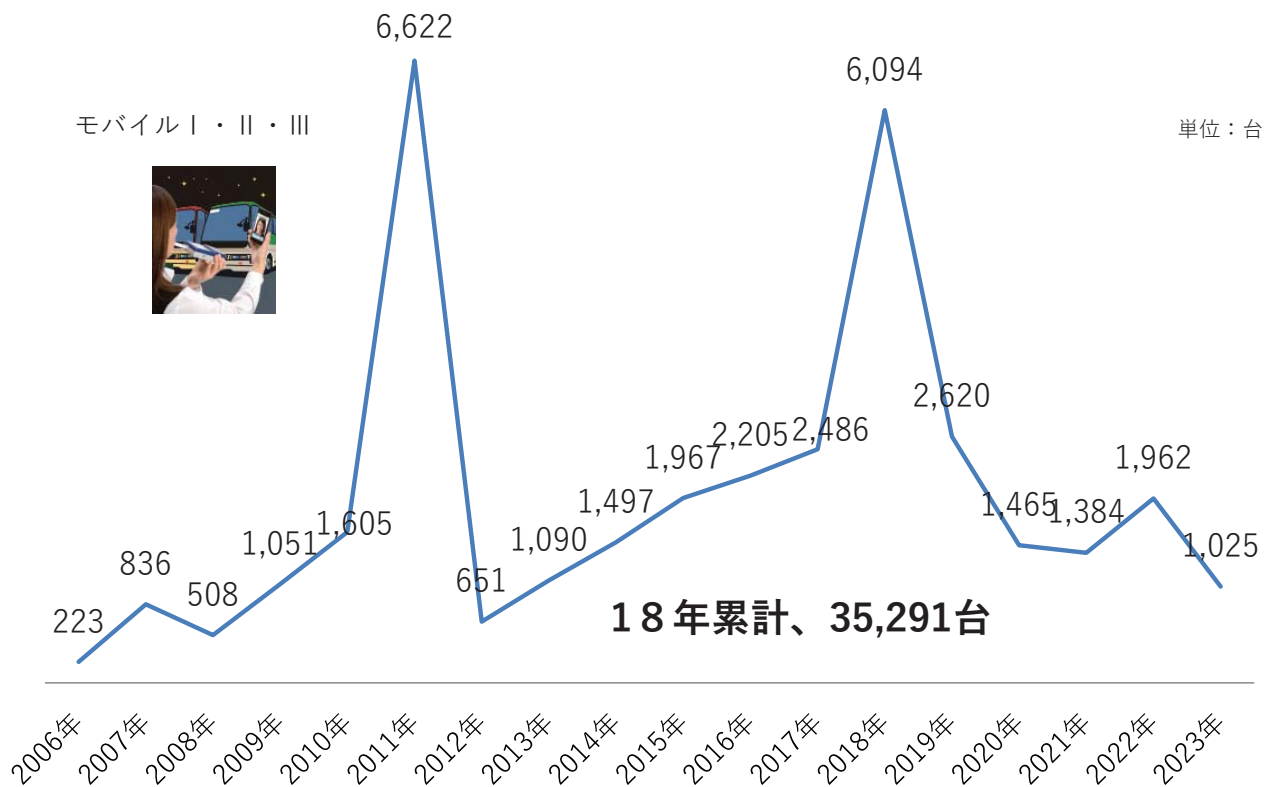
機種ごとと推移（ALC-PROシリーズ）



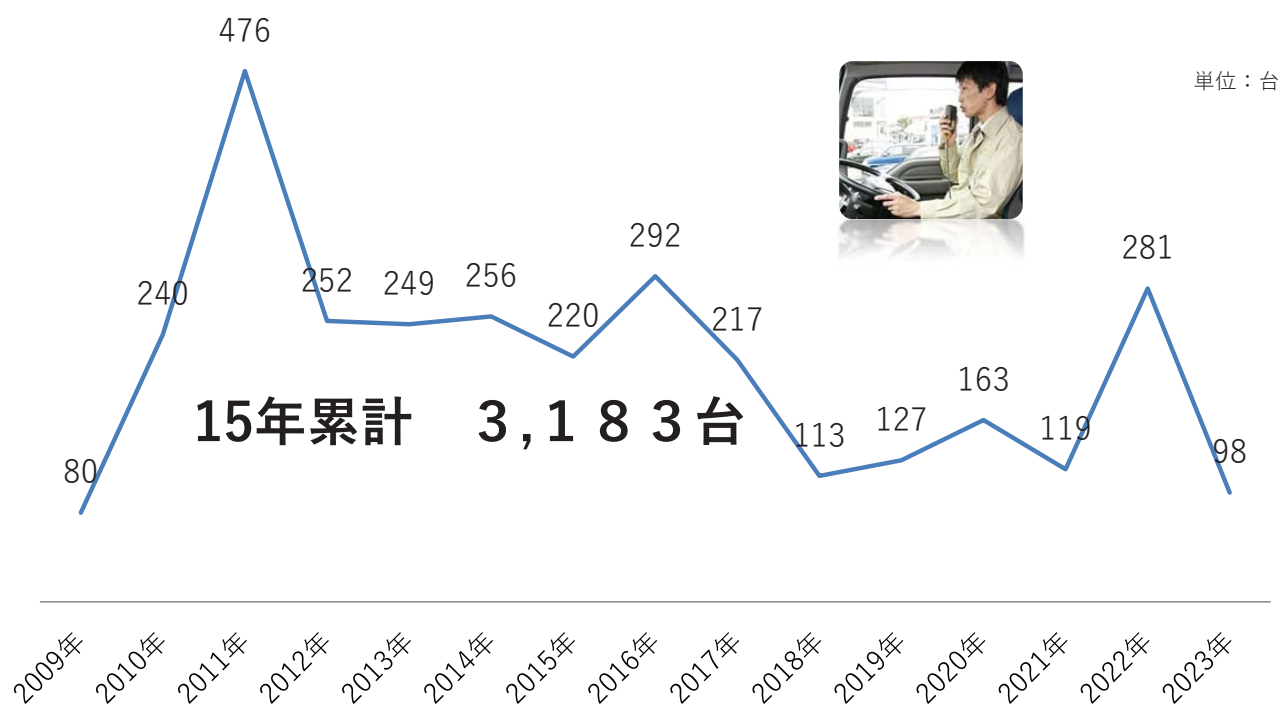
機種ごと推移 (ALC-miniIV)



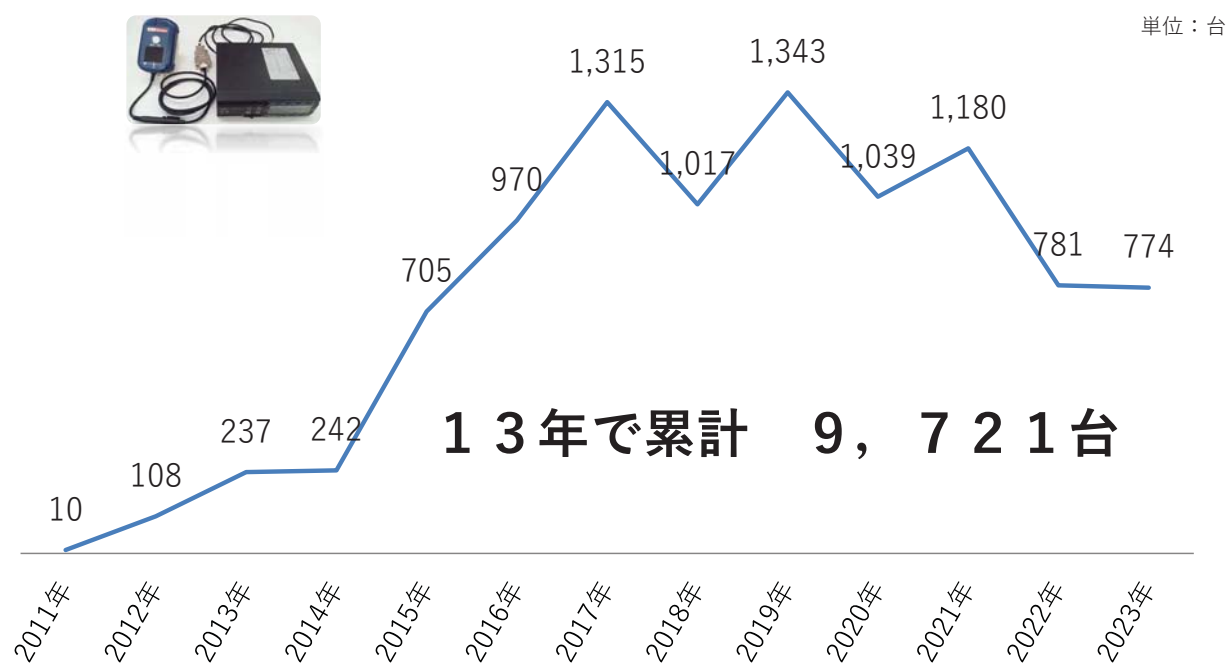
機種ごと推移 (ALC-Mobileシリーズ)



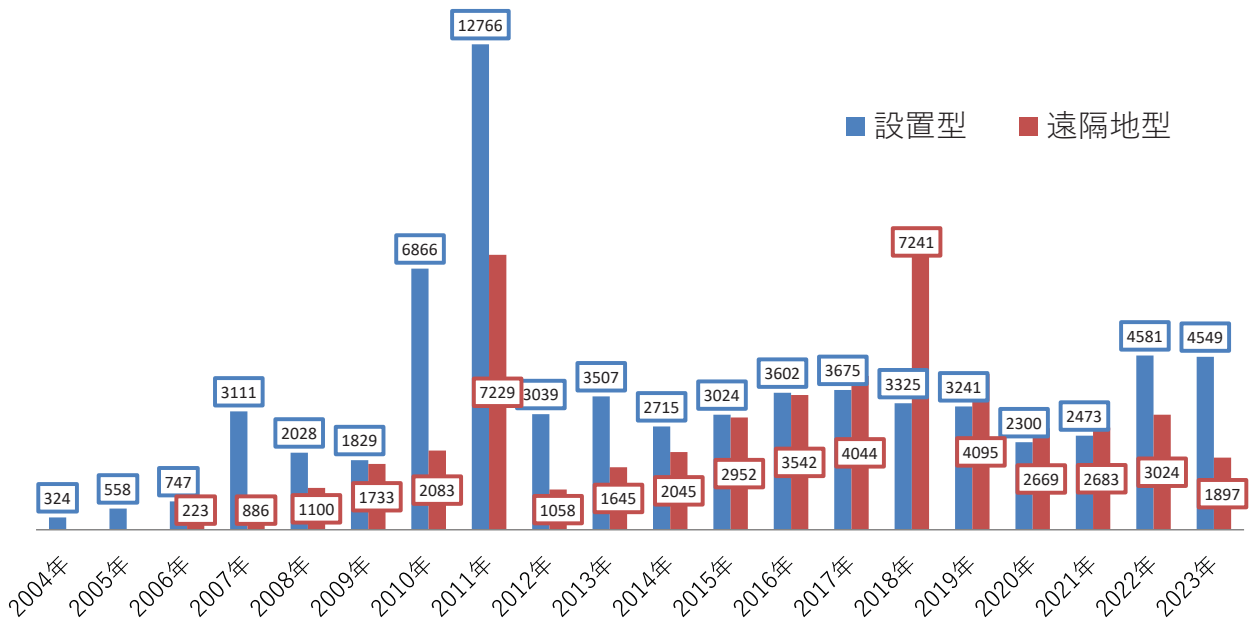
機種ごと推移（アルコールインターロック装置）



機種ごと推移（デジタル接続アルコール検知器）

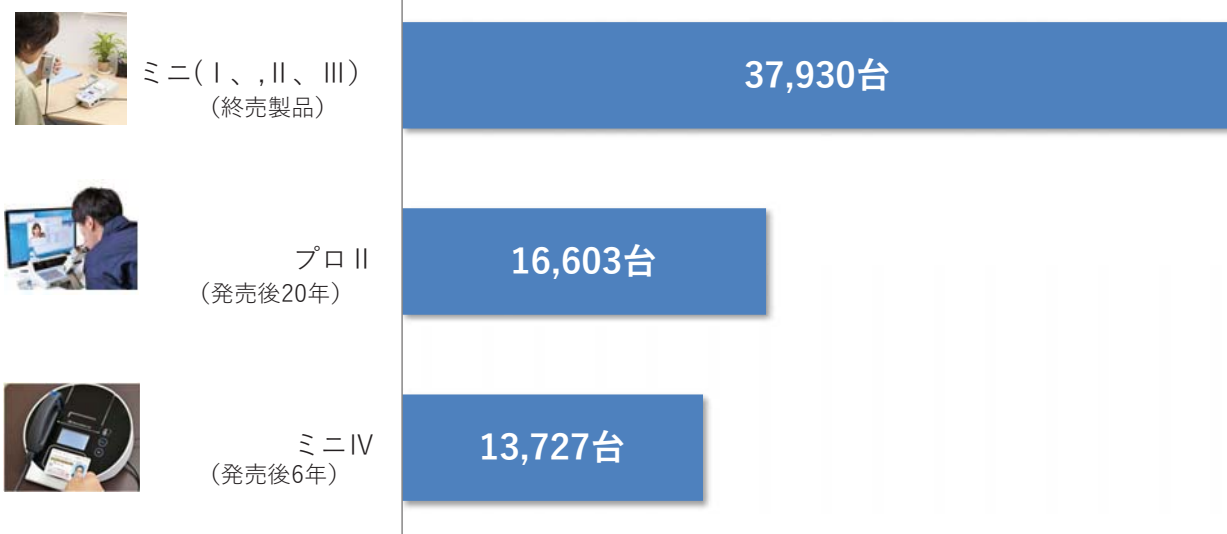


設置型アルコール検査器と 遠隔地型（車載型）アルコール検査器 （2003～2023）



遠隔地型は、車両数や従業員数によって導入数がまちまちである。2台使う企業もいれば、200台使う企業もある。一方設置型は、ほぼ一営業所に一台がほとんどである（希に多人数処理のため、2台並べて使うケースもある）。従い、基本、1社あたりの導入数は、設置型<遠隔地型 となる。しかし、ここ2年は、白ナンバーアルコール検知器義務化に適した機器としてALC-miniIVが好調であったため、結果、設置型優位となった（隔地型は、競争環境が激しいため、もともと2020年以降低調であった）。

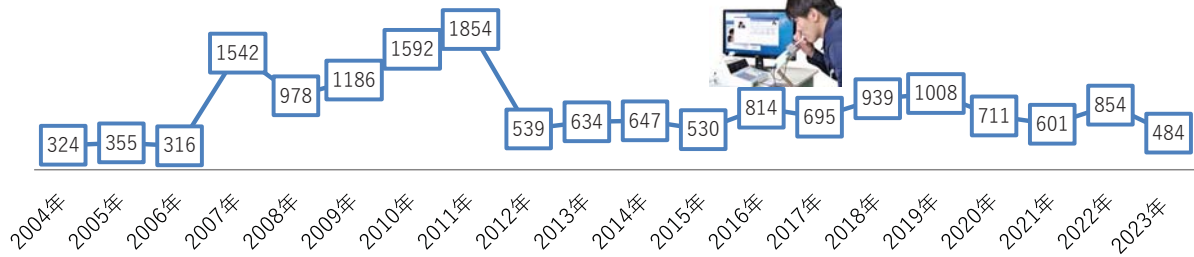
記録型・事務所設置型アルコール検査器とは？



2004年～2016年まで販売していたMiniシリーズ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）のうち、ALC-miniⅢは8万円台という価格から、3万台以上の実績となった（すでに終売）。後継機ALC-miniⅣも、免許証リーダー内蔵が好評で、発売以降順調に実績を伸ばしていたが、白ナンバー義務化により実績がさらに伸び、**発売後6年で1万台を超えた**。PC接続タイプは30万円前後という高価格帯ながらも、身代わり防止力が強いいためか、管理強化ニーズにマッチし、ロングセラーとなっているが、やや行き渡った感があり、伸び悩んでいる。

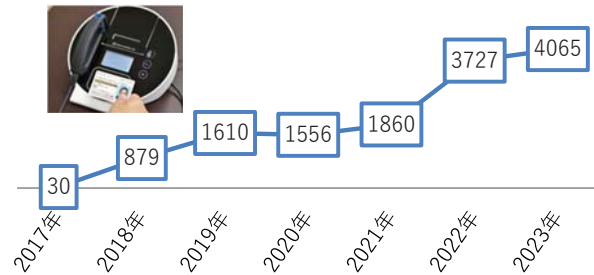
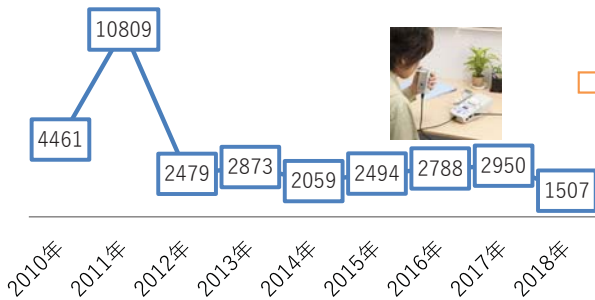
記録型・事務所設置型アルコール検査器

単位：台



第三世代 (ALC-miniIII)

第四世代 (ALC-miniIV)

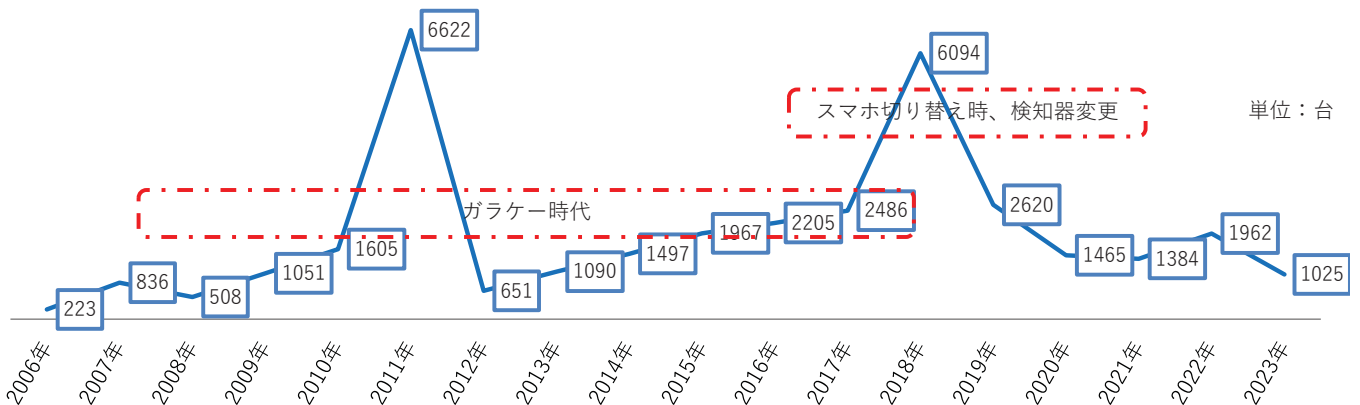


ALC-PROはプロ向けの堅実な製品として20年間続くロングセラーとなっているが、やや低調気味である。エントリーモデルであるminiシリーズは、第IV世代から、運転免許証リーダー内蔵・ICカード対応型となり、**白ナンバー義務化時に最も出荷された機種となった**。「1社に1台」コンセプトの設置型・記録型は、派手さはないが堅調な推移と言えよう。

遠隔地型アルコール検査器とは？



【スマホ接続型アルコール検査器 年度ごと実績】



当社の遠隔地型は3機種ある。出荷実績としては、**スマホ（昔はガラケー）接続型の実績が圧倒的に多い**。デジタルコに直接接続するアルコール検知器が一時期好調であったが、やや競争力が落ちてきた。アルコールインターロックは、大きな事故が起きると伸びるが、それ以外では低調である。

本資料に関するご注意

本資料中の200X年とは、当社の会計年度、10月～9月決算期を指します。

(例① 2020年 = 2019年10月～2020年9月 例②2023年 = 2022年10月～2023年9月)

本資料中の「設置型」「記録型」「簡易型」「遠隔地型」等の、機器タイプのカテゴリは当社によるものです。国土交通省や他メーカーの定義とは異なっている可能性があります。

本資料は、「他者製品への買い換え」「使用停止」等、解約台数は差し引かれておりません。従い、現在の稼働数は、本資料の実績よりも少ない数字となっています。

本資料中の「実績」とは、企業が新規に導入する、導入済みの企業が追加する（いわゆる増設）、新たな世代に買い換える等の指し、「校正」としての出荷は含まれておりません。

■参考：校正を含む総センサーユニット出荷数試算：

(20年間合計98万台校正(解約ゼロ%)) - (24万台(20年間の自社後継機入れ替え、他社乗換え、顧客廃業等総解約数+後継機乗換率=25%として)) = 73万台 と推定。